

1日

《県内路線価、宅地3年連続上昇》

仙台国税局は、相続税や贈与税の算定基準となる2024年の路線価（1月1日時点）を公表した。県内の標準宅地（4,300地点）の平均変動率は前年比0.9%プラスとなり、3年連続で上昇した。福島、郡山両市を中心とした都市部の住宅地需要や、新型コロナウイルスの5類移行に伴う商業地への来訪者数の回復、駅周辺の再開発事業が要因とみられる。

2日

《上半期の県内企業倒産56件》

帝国データバンク福島支店が発表した2024年上半期（1～6月）の県内企業倒産状況によると、負債総額1,000万円以上の法的整理による倒産件数は56件（前年同期比15件増）、負債総額は78億4,600万円（同3億3,900万円減）だった。同支店は、10億円以上50億円未満の大型倒産が発生しなかったため減少したと分析している。

4日

《県内春闘、賃上げ過去最高》

連合福島が、今春闘の傘下労働組合の賃金要求に対する企業側回答の最終集計結果を公表した。平均賃上げ率は5.06%（前年同期比2.09%増）で、記録の残る2007年以降最も高い賃上げ水準となった。人手不足の解消や物価上昇から組合員の生活を守るため、引き上げに踏み切った組合が多いとみられる。

10日

《県内住みこちランキング、桑折町初の1位》

大東建託（東京都）が、居住満足度調査に基づく「いい部屋ネット 街の住みこちランキング2024」を発表した。本県版のランキングでは桑折町が初の1位に輝いた。同町は行政サービス、親しみやすさ、物価、家賃の面で評価する声が多かった。

17日

《新車登録台数、6カ月連続減少》

福島運輸支局が発表した6月の県内新車登録・届け出台数（軽自動車と小型二輪車を含む）は5,739台（前年同月比11.6%減）で6カ月

連続の減少となった。軽自動車や貨物車などを除く乗用車は3,418台（同13.4%減）、軽自動車は2,200台（同8.9%減）だった。

18日

《1月～6月工場新增設35件》

県が発表した県内の1月～6月の工場立地状況によると、新增設（敷地面積1,000㎡以上）の届け出は35件（前年同期比19件増）だった。全体の雇用計画人員は902人（同630人増）だった。

19日

《ミラノ酒チャレンジ、末廣酒造プラチナ賞》

イタリア・ミラノで開かれた日本酒品評会「ミラノ酒チャレンジ2024」の審査結果が発表され、県内から酒テイasting部門で末廣酒造（会津若松市）の「純米大吟醸 末廣 夢の香」が最高賞のプラチナ賞に輝いた。

24日

《県内人口「社会減」2年連続全国最多》

総務省が発表した住民基本台帳に基づく人口（今年1月1日現在）の推移では、本県は転出者が転入者を上回る「社会減」が4,788人と、2年連続で全国最多となった。県は、社会減が全国で最多だったことについて、進学や就職のタイミングで首都圏や宮城県に出る若年層が多いと分析している。

30日

《有効求人倍率、3カ月連続で前月比減》

福島労働局が発表した6月の雇用失業情勢によると、有効求人倍率は1.24倍（季節調整値）で、前月を0.02%下回った。いずれの業種も前年に比べて新規求人数が減少傾向にあるとして、同局は今後の見通しを11カ月ぶりに下方修正した。

31日

《医療機器部品出荷額、13年連続1位》

県は、2022年医療用機械器具の部品出荷額が251億円（前年比4億円減）となり、都道府県別で13年連続で全国1位となったと発表した。本県は大手メーカーが立地し、部品加工の技術力の高さが認められていることから安定的に出荷できていると県は分析している。